

令和3年度 学校評価書

教育目標：個性を伸ばし、創造力を豊かにして、共に生きる社会に貢献する人間を目指す 「進取」「自律」「融和」

1 学力向上と学習指導の充実

十分に達成した (A) やや達成した (B) 少々達成できなかった (C) 達成できなかった (D)

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
(1) 学習習慣の定着と学力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ①面談週間を設定し、担任と生徒の面談を実施する。 ②学習時間調査を実施する。 ③「高校生のための学びの基礎診断」の評価・反省に基づき改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①実施後に面談週間の設定に関する問題点について意見集約を行いながら、年間2回以上の面談実施を目指す。 ②学習時間調査の集約結果により取り組みの成果を評価反省し、学校評価の家庭学習に関する項目のプラス評価80%以上を目指す。 ③結果の分析会を年次・教科ごとに開催するとともに、職員会議で報告し、教職員で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①科目選択や進路決定のため、面談週間の設定は適切であった。各年次の先生方より適宜生徒の実態に応じて面談をしていただいた。 ②7月と12月に実施したが過年度比較すると減少傾向であった。また学校評価のプラス評価も例年同様60%程度と低い結果であった。 ③年次ごとの分析会は行った。各教科の分析資料の依頼が遅れてしまった。現在作成を依頼中である。 <p style="text-align: right;">(B)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ②総合学科としてどのような家庭学習が必要か、また、どのような課題等が本校の生徒にとってふさわしいか検討していく必要がある。 ③進路指導部と連携しながら職員全体で共通理解をしながら生徒の学びを深めていきたい。
(2) 魅力ある授業づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ①探究的な学習の視点での授業改善を行う。 ②生徒によるICTの活用を推進する。 ③保護者への授業公開を行う。 ④指導助言者の招聘や先進校視察など、研修を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①実施計画及び実施報告を教職員で共有する。 ②ICT活用した授業実践報告の研修会を年間1回実施する。 ③学校評価アンケートにおいて魅力ある授業となっていたかをはかる。 ④研究授業を年間2回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業研究週間で探究的な学習を取り入れた授業を4つの教科で実施していただき、さらに事後研究会資料を職員会議で報告し共有した。 ②業者による大型提示装置の使用に関する研修会や、Google クラウドルーム及びGoogle meetに関する研修会を計4回行った。また研究授業週間中にICTを活用した授業実践を行っていただき、会議で共有した。保護者アンケートでは80%が魅力ある授業が行われていると回答していただいた。 ③コロナ感染予防の観点から保護者への授業公開は行わなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①4月よりすべての生徒が1台端末を使用することになるので、ICT活用した授業の実践研究は引き続き行う。

			④6教科で研究授業を実施した。また、9月に県教育委員会指導主事を招き、観点別評価に係る研修会を行った。11月2日の授業公開日に、初任研に係る先生方と教育センターから1名の参加があり「タブレットを活用し、生徒が主体的になれる授業だと思いました」といった感想を頂いた。 (A)	④来年度も同様の時期に実施したい。
(3) 読書習慣の定着を図る。	①朝読書の指導計画や指導体制を学校全体で共有する。 ②図書の実用を図り、図書利用を促進する。	①教務部図書担当と学校司書による巡回を行い、実施状況について把握する。必要に応じて、年次担任団に協力を得る。 ②年間10冊以上の読破を達成させる。	①全体的に落ち着いて朝読書を行っていた。 ②図書館だよりを通じて本の魅力を紹介した。生徒より年間読書冊数の調査を行ったが平均7冊程度の読破にとどまった。また、学校評価の図書館利用に関する評価が70%～56%と大きく下がった。 (B)	②図書委員を通して生徒にとってより良い図書館について検討し、生徒が利用しやすい雰囲気づくりをしていく。
(4) 「産業社会と人間」および「総合的な探究の時間」を推進する。	①3年間を見通した計画を立てる。 ②実施状況と課題を記録し、次年度以降の計画に反映できるよう、年間指導計画に基づき円滑に実施する。	①3年間を見通した計画になっているか産人・探究委員会で検討する。 ②職員会議で年間指導計画に基づき円滑に実施されたか検討する。	①第2回の産人・探究の運営委員会で検討を行った。 ②すべての年次でおおむね計画通り実施された。2年次は1回、3年次は2回探究学習の発表会を実施した。 (A)	①次年度に向けて各年次、進路指導部に協力を頂きながら具体的な案を提示し、さらなる検討を行う。
(5) 新しい教育課程の完成と実施計画を作成する。	①新学習指導要領への移行と、令和5年度(2023年度)からの学級減への対応を見据えた実施計画の検討を行う。 ②地域を取り入れた教育課程の実施計画を作成する。	①教育課程検討委員会を必要に応じて開催し、議論を進める。 ②生徒や地域の実態を把握し、地域との係りを持った効果的で柔軟な年間指導計画を作成する。	①教育課程検討委員会で議論を重ね、12月に令和5年度の新教育課程の提出に至った。また令和4年度入学生用のシラバスも完成目前である。先生方の御協力に感謝したい。 ②地域を取り入れた新教育課程の実施計画を作成した。 2年次で天童市役所の職員に来ていただき地域に関する講演会を行った。また、保健福祉系列で羽陽学園短期大学	①次年度の新教育課程実施に向けてさらに議論を進めていく。 ②産人・探究委員会の中で地域連携を取り入れた実施計画を作成していきたい。

			と高大連携の授業を行ったり、地域の福祉施設で実習を行ったりした。(A)
--	--	--	-------------------------------------

2 キャリア教育の推進

十分に達成した (A) やや達成した (B) 少々達成できなかった (C) 達成できなかった (D)

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
(1) 高大接続改革を効果的に利用した受験指導を行う。	①令和2年度の大学入試制度の変更を踏まえ、特に近隣大学に関する正しい入試情報のもと、3年次担任団と情報を共有して生徒に十分な指導を行う。 ②大学等への進学用提出書類の作成に向けて、分掌、年次、担任それぞれの役割を明確にし、着実に準備が進むように進路部が統括する。 ③学びの記録を習慣化するために、本校オリジナルの学生手帳を定期的に活用させる。	①生徒・保護者が不安なく受験に向かえらるとともに、出願・受験が遺漏なくスムーズにできていたか。 ②学生手帳 (SSP) に記入する習慣をつけるために、年次ごとに定期的に活用する機会を持てたか。3年次に関しては、調査書や受験の際の提出書類に生かされたか。	①外部から情報が入り次第、当該年次に回覧の形で提供を行い、情報共有を行なった。出願・受験の滞りも無かった。 ②進学用調査書の様式や記載方法の変更が多かったが、進路と年次の共有は図れた ③SSPは、学校行事、外部講師による講話、テストの振り返りなど行事ごとに記入させ、その都度点検を行ったが、日々の記入については、まだ個人差がある。 (B)	①特に近隣大学の入試情報について、1・2年次とも共有する。 ②調査書の記載について、今年度の変更をまとめ、次年度早い段階で年次団と確認する。 ③SSPの記載について意識づけする機会を、年度初めに持つ。教員の書類作成にどのように生かせるかも検討する。
(2) 生徒の進路実現に向けて、模擬試験や探究学習を活用する。	①模擬試験の「事前学習⇒試験実施⇒振り返り・事後学習」の学習プロセスを定着させるために、模擬試験の結果分析を行い指導に生かす。 ②進路達成の観点から、探究活動の指導が円滑に進むようにサポートを行う。	①学びの基礎診断、各種模擬試験の事前事後学習が実施されたか。また次の試験までの具体的取り組みが毎日の学習に反映されているか。 ②講師の手配や必要に応じた外部との連携など、活動のサポートを行うことで各年次の探究活動が円滑に進んだか。	①学びの基礎診断や、各種模試の結果を、目標設定や生徒への声かけなどの指導に反映させ、家庭での事前学習をある程度実施させることはできたが、日頃の学習に反映させるまでにはまだ至っていない。 ②探究活動は、外部講師を適切に活用しながら、年次ごとに進められている。推薦入試や調査書に活用するには、夏休み前にまで活動が完了していることが望ましい。 (B)	①進学向けの模擬試験に関して、より確実に事前学習をさせる手立ておよび模試分析会を生かした個別指導を考える。 ②年次と連携し、産人探究委員会での検討も行いながら、3年次の夏までに探究活動の発表まで進められるように日程調整を行いたい。下学年の見学も検討していく。
(3) 生徒の第一希望の進路達成のために、教員の指導力を高める。	①職員研修会や各種分析会を行い、一人ひとりの生徒の情報や指導方法について共有化を図る。併せて教員向けの外部研修	①生徒が十分な指導を受けて、就職・進学の試験に臨むことができたか。また、外部研修の成果が主に教科内で共有できたか。	①ベネッセによる分析会を通して、生徒情報の共有化を図った。生徒への声掛けや面談でのアドバイスをいただき、生徒の進路指導に生かしてい	①各種分析会の報告を全職員で共有できないか検討する。併せて、職員研修への案内を時期ごとに実施する。

	<p>参加を促し、情報を校内で共有する。</p> <p>②全職員で行う3年次生の個別指導については、必要な情報を指導担当者に提供すると共に、進路部・年次が指導教員と情報交換をする。</p>	<p>②就職内定100%、大学・短大及び看護医療系専門学校合格者75名（うち国公立大学2名）以上、公務員試験合格者10名が達成できたか。</p>	<p>る。一方で、職員外部研修の参加が、現時点で一教科に留まっているのは残念である。</p> <p>②先生方の手厚い個別指導のおかげで就職率100%、大学短大医療系進学74名（うち国公立大5名）、公務員12名の希望が達成した。 (B)</p>	<p>②個別指導のシステムは今後も継続する。外部講師による公務員講習も継続する。</p>
<p>(4) 進学・就職それぞれにおいて、3年間一貫した指導を確立する。</p>	<p>①外部講師も活用しながら、生徒・保護者に向けた進路ガイダンスを、時期に応じて体系的に実施する。</p> <p>②国公立大進学を目指す生徒についての早期個別指導を、関係業者等の活用も検討しながら、1年次から実施する。2年次のK&Mチーム（国公立大学志望者・医療看護系進学志望者へのグループ指導）の指導も継続し、学校推薦型選抜の変更にも対応し得る体制を整える。</p>	<p>①進路ガイダンスの事後アンケートで確認する。</p> <p>②難関大希望者早期指導・2年次後期からのK&Mチームの指導が無理なく効果的に実施されているか。継続性を重視し、適宜年次、教科と検討し、指導方法に修正を加えながら実施できたか。</p>	<p>①親子進路説明会実施 3年次：4月分科会（大学医療系・専門・就職）／5月公務員 2年次：6月奨学金（希望者）／10月分科会（大学・医療系・専門・就職・公務員） 1年次：9月全員対象に進学および就職 適切な講師を手配し効果的なガイダンスを行うことができた。時期に関しては要検討か。</p> <p>②年末からK&Mチームの指導を開始した。共通テスト対応が必須の生徒には教科指導も行っていく。 (B)</p>	<p>①年次と連携し、前後の行事予定を検討しながら、今年度中に説明会の日程および内容を確定する。</p> <p>②早期進学指導対象者が継続して努力できるよう、進路部としての情報提供を行う。共通テスト対策として、業者のオンライン指導等も視野に入れながら検討する。</p>

3 生徒指導及び特別活動の充実・強化

十分に達成した **(A)** やや達成した **(B)** 少々達成できなかった **(C)** 達成できなかった **(D)**

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
<p>(1) 安全に対する意識の高揚を図る。</p>	<p>①交通ルール・マナーの遵守、自転車走行上注意等に関する効果的な安全教育・安全管理により生徒の安全を確保する。</p> <p>②保護者・地域との協力により登下校時の生徒の安全の確保に努める。</p>	<p>①事故件数・苦情件数等の前年・全前年度度の比較や安全管理に関する各種取組の充実度で評価する。</p> <p>②学校評価アンケート（生徒）（保護者）で評価する。</p>	<p>①交通ルール・マナー遵守等の指導については、指導の内容を検討しながら機会を捉えて啓発活動を行ってきた。</p> <p>②コロナ感染防止の観点から、思うようなPTA生徒部・保体部との協力関係が図られなかった。外部関係団体等との連携・協力を努め、生徒会</p>	<p>①今後も機会を捉えて交通ルール・マナー遵守等に対する啓発活動を行うとともに、これまで実施できなかった交通安全委員会を中心とした生徒の活動も積極的に推進していく。</p> <p>②外部団体とも協力しながら、交通安全に対する意識の高揚を図っていく。</p>

			<p>執行部・交通安全員が中心となり取り組んだ。</p> <p style="text-align: center;">(B)</p>	
<p>(2) 生徒が自ら企画し、主体的に参加・運営する生徒会活動・部活動を推進する。</p>	<p>① 生徒会役員の役割の明確化と各種委員会の位置づけや活動内容の検討を行う。</p> <p>② 各種委員会の自主的活動を推進する。</p> <p>③ 生徒一人ひとりの活躍できる場を提供し、各種行事等への積極的な参加を促す。また、地域貢献活動に積極的な参画を促す。</p>	<p>① 4クラス規模の適正な委員会数や部活動活数と活動内容の検討を行い、改善する。</p> <p>② 各種行事等に対する反省を集約する。</p> <p>③ 生徒会活動・行事等への参加に関する普段の学習や部活、学外活動を振り返りながら、その過程や成果を記録することにより評価する。</p>	<p>① 自年度以降の部活動の統廃合を検討し、一定の方向性を示した。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症防止の観点から、委員会の自主的活動が思うように実施できなかった。</p> <p>③ 制限つきでの学校行事が続いており、生徒会役員等の活躍の場も少なく。リーダーシップを発揮できるような体制をうまく構築できなかった。</p> <p style="text-align: center;">(B)</p>	<p>① 生徒会の委員会数やその活動内容、部活動の適正数については、さらなる検討必要である。</p> <p>② 生徒会行事については、生徒の自主的活動とする指導していく。</p> <p>③ 一人ひとりが積極的に参加できる学校行事となるよう工夫するとともに、生徒会行事へのかかわり方についても検討する。</p>
<p>(3) 規律ある学校生活を確立する。</p>	<p>① 定期的な身だしなみ点検を行い、清潔感ある服装となるよう指導する。</p> <p>② 携帯電話の使用ルール・時間の順守できるよう啓発活動・管理指導を行う。</p> <p>③ 教室移動や集会時における整列など時間に対する意識付けを行う。</p>	<p>① 身だしなみ点検の実施状況と個別に指導を受けた生徒者数により評価する。</p> <p>② 生徒・教員による啓発活動の実施状況と生徒の意識や実態の把握に務める。(学校評価アンケートも活用する。)</p> <p>③ 教員・生徒会による声かけ等の啓発活動や集会時等の整列状況等で評価する</p>	<p>① 身だしなみの指導については、点検時のみの指導となりがちであり、身だしなみ月間を設けたが思うような効果が得られなかった。</p> <p>② 携帯電話の使用については、年度当初から意識の定着に向けての活動に取り組んだ。定期的な呼びかけも必要だった。</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染症防止の観点から全校生徒が一堂に会しての集会は今年度も少なかった。集合時の指導など、徹底できないことがあった。</p> <p style="text-align: center;">(C)</p>	<p>① 平常授業時における身だしなみの指導について、全職員が共通認識に立ち指導できるような体制を検討していく。</p> <p>② 携帯電話等の生活指導については、多少、生徒の緩みも見られるため、今後機会を設け重点的な指導も行っていく。</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染防止を踏まえた集会の在り方等については、今後の状況の推移を考慮し実施を検討していく。WI-FI環境が整った中で利用の仕方等についても関係分掌等と連携しながら取り組んでいく。</p>
<p>(4) きめ細かい生徒指導体制を確立する。</p>	<p>① 生徒指導上の問題の共有化を図り、年次やヘルスサポート委員会等と連携し、組織として対処していく。</p> <p>② 生徒の安全・安心を確保できる生活環境と生徒間トラブルの</p>	<p>① 生徒指導上の問題に対する対処の方法等について、情報の共有が図られているかによって評価する。</p> <p>② いじめアンケート調査や問題行動数の把握等から評価する。</p>	<p>① いじめ防止対策委員会やヘルスサポート委員会からも問題等を抱えている生徒の対処と指導の在り方について報告し、情報の共有化に努めてきた。これらの情報をもとにきめの細</p>	<p>① いじめを許さない雰囲気づくりに努め、いじめの対応にあたっては、より一層の組織的対応ができるよう、共通理解のもとに取り組みを進めていく。</p>

	未然防止に努める。		かい生徒指導ができるような体制作りが必要である。 いじめ防止対策の観点から、いじめの情報の速やかな情報の共有と対応に努めてきた。 ②いじめアンケートの件数、問題行動の件数ともに減少しているが個別対応が重要になってきている。 (B)	
(5) 心身ともに健康的な学校生活を確立する。	①スクールカウンセラーによる健康相談活動を充実させる。 ②健康診断や各種検査の事後指導の徹底を図る。	①不登校、別室登校のゼロを目指す。 ②健康相談活動を年間 18 回以上実施できたかで評価する。 ③健康診断後の精密検査受診率が向上しているかどうかで評価する。	①対人関係の問題により不登校になった生徒がいる。 ②前期 9 回、計画通り実施した。 ③内科的疾患の精密検査は、概ね順調に報告がなされている。視力検査の報告は 4.6% (R2: 3.8%) である。歯科治療報告は 2.4% (R2: 13.6%) で低かった。 (B)	①生徒間の問題や課題解決に向けて情報を共有し、具体的な指導支援を検討し実施する。(ケース会) ②調整しながら継続して実施する。 ③10 月、12 月、1 月に精検勧告を継続し、視力検査の報告率を上げる。
(6) 新型コロナウイルス感染症を予防する。	①毎朝の検温チェックを行い、生徒の体調把握に努める。 ②朝の手指消毒、授業間の換気、マスク着用、手洗いの励行など、有効な感染対策を日常的に行う。	①学校内での感染状況等の発生の有無で評価する。 ②学校評価等の内容を踏まえ評価する。	①夏休み中に感染が発生した。 ②昼食の指導を全職員で行った。消毒作業等も全職員で実施した。 (B)	①感染防止対策は、人的管理等も含めて、チェックリストを活用し厳しく管理をしていく。 ②引き続き、体温チェック、体調把握、授業間の換気、マスク着用、手洗いなどの感染防止対策を継続する。

4 安全・安心な学習環境の整備

十分に達成した **(A)** やや達成した **(B)** 少々達成できなかった **(C)** 達成できなかった **(D)**

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
(1) 安全点検を実効あるものにし、安全・安心な学習環境を整備する。	①月 1 回の安全点検の結果を、校内グループウェアなどを活用して全職員で共有し、学習環境の整備に努める。	①安全点検の確実な実施と公表、点検で確認された異常箇所の修理・修繕等の状況により評価する。	①月に一度の安全点検の実施と結果の共有を確実にに行った。修理・修繕も、事務部の協力によりスムーズであったが、一部予算の都合で修繕ができない箇所があった。 (B)	①修理・修繕について、危険箇所の優先的対応や、高額修繕の予算確保など、事務部との連携をより密にして進める。

<p>(2) 防災及び情報セキュリティについて、一人ひとりの危機管理意識を高める。</p>	<p>①年2回の防災訓練のうち一回は「シナリオ提示型」、もう一回は「抜き打ち」訓練を行い、より実効あるものにする。 ②情報セキュリティの強化を図るための情報提供を行い、問題発生皆無を目指す。</p>	<p>①危機管理委員会を開催し、防災訓練の成果と課題を検討する。また、学校評価アンケート（生徒）で防災訓練の成果を測る。 ②情報セキュリティに関する問題発生状況及びその対応で評価する。</p>	<p>①6月に「シナリオ提示型」、10月に放送による防災指導を行った。訓練は年2回実施できたが、「緊急の際に安全に避難できる」と答えた生徒は1年次がやや少なかった。（2・3年次：92%、1年次：83%） ②情報セキュリティに関する問題は、今年度は発生しなかった。 (B)</p>	<p>①コロナ禍であっても取り組める効果的な防災指導について検討して実践し、「緊急時には安全に避難できる」という生徒の自信を高めたい。 ②次年度、『緊急時対応マニュアル』点検・改定の際に、情報に関する危機管理についても盛り込んでいけるよう、検討を進めていく。</p>
---	---	--	--	---

5 家庭や地域との連携強化

十分に達成した **(A)** やや達成した **(B)** 少々達成できなかった **(C)** 達成できなかった **(D)**

重点目標	具体的取組事項	評価方法及び評価指標	取組状況・達成状況	次年度に向けての改善策
<p>(1) 校外の様々な地域ボランティア活動を通じて、「地域に貢献し、地域と共に歩む心」を育てる。</p>	<p>①全校で一人一ボランティアの活動を推進し、地域貢献活動を行う。特に、コロナ禍によって昨年度中止となった「天童夏まつり」に積極的に参加する。 ②生徒部と連携し、地域の行事に進んで取り組んでいくことで、地域の一員としての意識と地域に貢献する態度を育てる。</p>	<p>①生徒のボランティアの総数で評価する。（一人平均一回以上を目指す。） ②学校評価アンケート（生徒）（保護者）により、ボランティア活動・地域貢献活動の成果を測る。</p>	<p>①「天童夏まつり」は中止、その他のボランティアも機会が少なかったが、東日本大震災の被災地 寒風沢島へ手作りカレンダー等を送るボランティアには198名、聖火リレーボランティアには115名が参加した。年間のボランティア報告件数は272件で、平均ボランティア回数は一人0.6回であった。 ②アンケート「ボランティアや社会貢献活動は活発（生徒：73%、保護者79%）」はやや低評価。また、生徒・保護者共に下級生ほど評価が低い。 (C)</p>	<p>①②今後も、コロナの感染状況を見ながら、活動可能なボランティアや地域活動の機会を逃さず、生徒の地域貢献意識の向上に生かしていかなければならない。ボランティア後の報告書提出について指導する必要がある。 また、「天童夏まつり」をはじめとする地域行事等の参加ボランティアについて、R1までに経験した生徒が卒業してしまうため、行事が再開した際には、未経験の生徒が積極的に参加してスムーズに活動できるような方策を検討していく。</p>
<p>(2) 保護者と連携し、学校行事やPTA諸行事を円滑に行う。</p>	<p>①PTA諸行事の出席率80%以上を目指す。 ②令和5年度の学級減に向けて、PTA諸活動の見直しを図る。</p>	<p>①PTA諸活動の参加率により評価する。 ②各専門部の役員の意見を、目に見える形の変化にまとめることにより評価する。</p>	<p>①PTA総会（紙面開催）の意向確認書提出率は98.5%、第1回評議員会（4月）の参加率は86%であり、高い参加率は維持できた。 ②PTA評議員の人数減にあわせた専門部数の見直しについて、令和4年度PTA総会で提案する準備を整えることができた。 (A)</p>	<p>①コロナ禍により計画通りのPTA活動ができない部分もあるため、この状況下で実施できる活動内容を再検討し、また、事後に紹介・発信するなど考えていきたい。 ②令和4年度PTA総会で規約改正の後、令和5年度から新専門部でスムーズに活動できるよう、活動内容の整理</p>

				や移行準備を進めていく。
(3) 創立 100 周年事業の完成に向けて、円滑に業務を進める。	①同窓会や他の諸機関、他分掌との連携を図り、年度内の完成を目指す。	①計画的に業務を進め、年度内に事業を完成することができたかで評価する。	①校長室前に掲示する100周年記念パネルについて、2月設置に向けてデザイン作成等を進めている。 (A)	①100周年事業の総括や、資料の整理と保管を適切に行う。
(4) 生徒の活動をはじめ学校の教育活動に関する情報を積極的に発信する。	①ホームページの適切な更新を心がけ、生徒の活動が見えるような情報発信に努める。 ②ホームページ年間運用計画表を作成し、年間30回以上の更新を行う。	①学校評価アンケート（保護者）でホームページによる情報発信について評価していただく。 ②計画に従って一人一回以上更新し、年間30回以上の更新を行ったかで判断する。	①保護者アンケート「ホームページで適切に伝えられている」は82%で、高評価を維持している。 ②ホームページ年間運用計画に基づいて担当者への声かけ等を行ったが、計画通りにいかない部分が多かった。（1月まで31名中17名更新）しかし、計画以外の更新を積極的に行ってくれる方もいた。計画とそれ以外の更新をあわせて、教員36名中23名が更新を実施。（未更新者で2・3月の計画更新担当者は2名）1月までの年間更新件数は合計91件であった。 (A)	①②今後もホームページの適切な更新のため、運用計画の見直しをしていく。また、授業・部活動などについても積極的に更新できるような取り組みを検討するなど、興味深い魅力的な内容にするため方策が必要である。

学校関係者評価委員から

1 「学力向上と学習指導の充実」について

○何か新しいことに挑戦する「探求型」の教育が時代の要請であり、その視点で改善を進めていく必要があると感じます。

また、読書は大切です。本を読めば何かを考えます。読書とは、別の世界を知ること。他の考え方に出会う絶好の機会であることを伝えて、一人でも多くの生徒さんを読書好きにして頂ければと思います。

○科目選択や進路決定のための面談を設定して、丁寧な指導に努めていること。タブレット等のICTの活用について研修会を実施していること。等、学習習慣の定着や魅力ある授業づくりについて努めていることに感心しました。数字的な裏付けはありませんが、図書館の利用（図書利用）については、中学校でも減ってきていると思われます。

○「読書習慣の定着を図る」については、とても良い取り組みだと思います。スマホの影響もあるかと思いますが、読書の楽しさ・素晴らしさが伝わるように今後も取り組んでいって欲しいと思います。

2 「キャリア教育の推進」について

- 生徒さんたちの「夢」「目標」実現の為に積極的な関わりと誘導をお願い致します。また、結果も重要ではありますが、取り組む姿勢や態度がより大切であることも教育頂きたい。
- 生徒の進路（就職・専門学校・大学）が様々であり、その実現に向けて外部講師の活用や模擬試験の実施等、天童高校の手厚い指導に感謝いたします。
- 進学・就職それぞれにおいて、教職員の皆様のご苦勞ご尽力されていると強く感じます。部活動もですが希望進路達成というものが天童高校の大きな魅力になると思いますので、今後ともご指導宜しくお願い致します。

3 「生徒指導及び特別活動の充実・強化」について

- 「身だしなみは相手の為に、オシャレは自分の為に」身だしなみとオシャレの違いをしっかりと生徒に教えて欲しいと思います。
- スクールカウンセラーの重要性が増しています。より一層充実させて頂きたいと思います。
- 交通ルールやマナー等の指導、ご苦勞様です。春先に登校指導で国道 13 号線（パチンコ店とファミリーマートのある）の交差点で指導中、何人かの天童高校生徒に爽やかなあいさつをもらって、気分が良くなったことが思い出されます。今後もぜひ継続してほしいと期待します。
- 新型コロナ感染症防止の策をとりながらの厳しい状況において、それぞれ十分に達成できているのではと私は感じます。

4 「安全・安心な学習環境の整備」と「家庭や地域との連携強化」について

- どんな災害が起きるか予測がつかない現状ではありますが、安全・安心は全てのベースであり、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。良い学校を築くには、家庭や地域との連携がしっかりと取れていることが重要であり、その為に情報発信力も大切であると考えます。
- 災害や事故そして犯罪により、命にかかわる危険がいつ起こるかわからない世の中になっておりますので十分に注意していただきたいと思います。

その他

- コロナ禍において、私生活や学校生活が大きく変わり大変なことが多々あると思いますが、このコロナ禍での入学・卒業される生徒の皆さんには一つでも多くの思い出の残る高校生活であって欲しいと心から願っております。